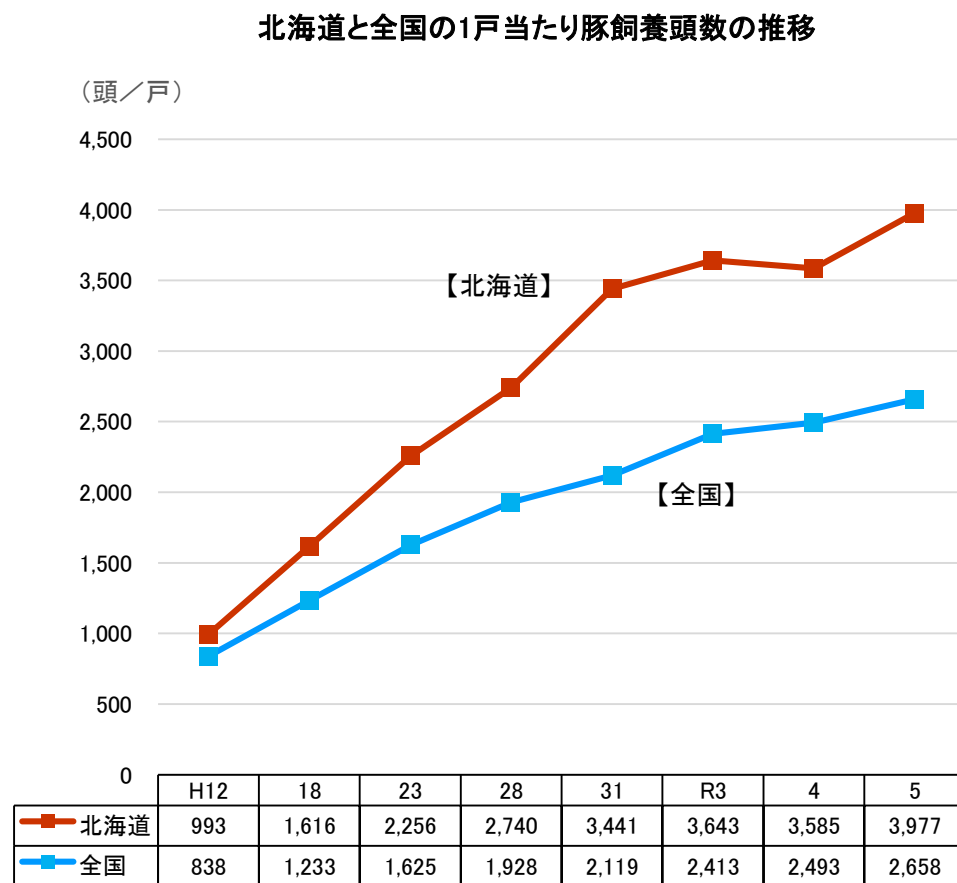
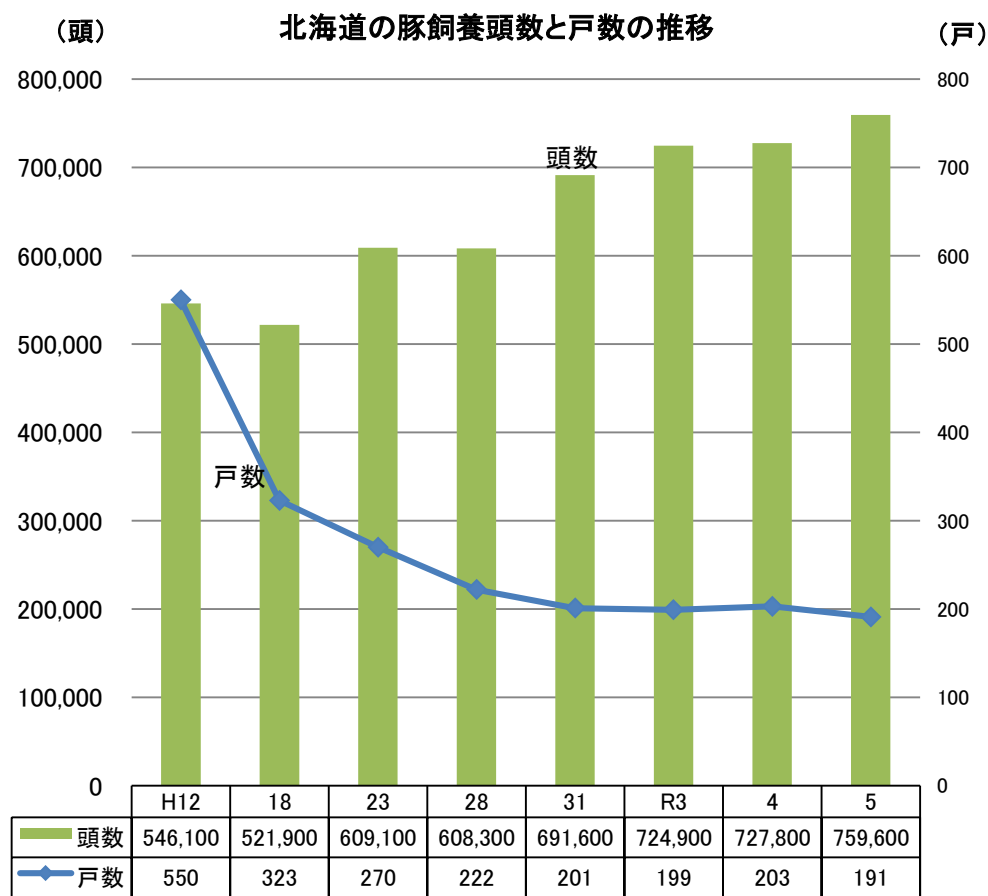


## 2 豚の飼養動向

- 豚の飼養戸数は、近年横ばいで推移していたが、令和5年(2023年)は前年対比5.9%減の191戸。
- 飼養頭数は、昭和63年(1988年)の672,100頭をピークに、中小規模の生産者の経営中止から減少傾向にあったが、近年大規模化が進展し、令和5年(2023年)は、前年対比で4.4%増の759,600頭。
- 1戸当たりの飼養頭数は、増加傾向で推移しており、令和5年(2023年)は、前年対比で10.9%増の3,977頭で、全国平均(2,658頭)の1.5倍となっている。



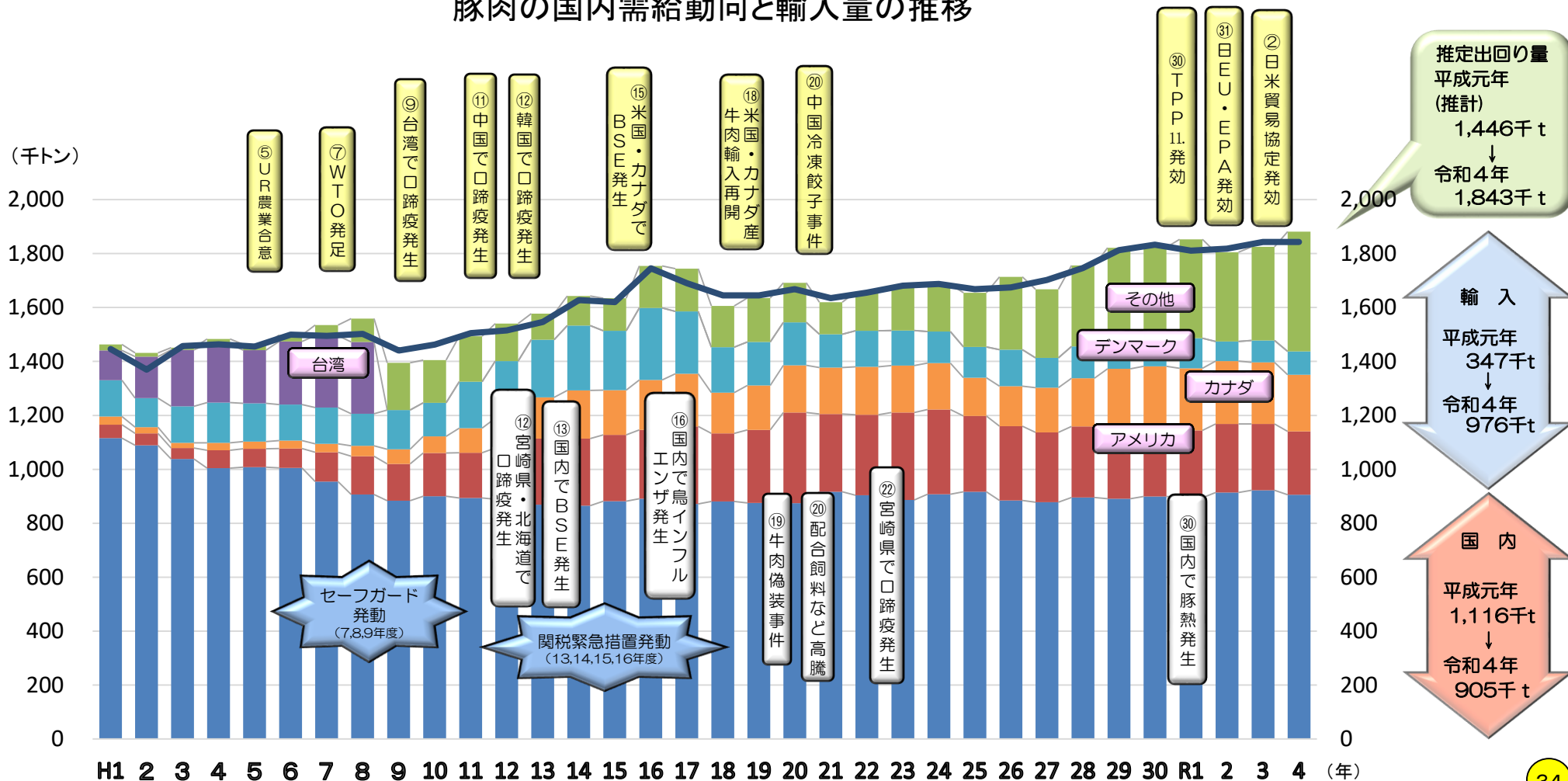
資料:農林水産省「畜産統計」

注:令和2年は、センサス年のため調査未実施

### 3 豚肉の需給動向

- 豚肉の消費量(推定出回り量)は、平成13年(2001年)の国内でのBSE発生や平成16年(2004年)の高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う牛肉・鶏肉からの代替需要により、平成17年(2005年)まで増加傾向で推移し、その後概ね160万トン台で推移したが、平成29年(2017年)以降は、需要の高まりを背景に輸入量が増加し、180万トン台で推移している。
- 豚肉輸入量(部分肉ベース)は、国別にアメリカ、カナダの順に多く、国内需要の約半数を占める。

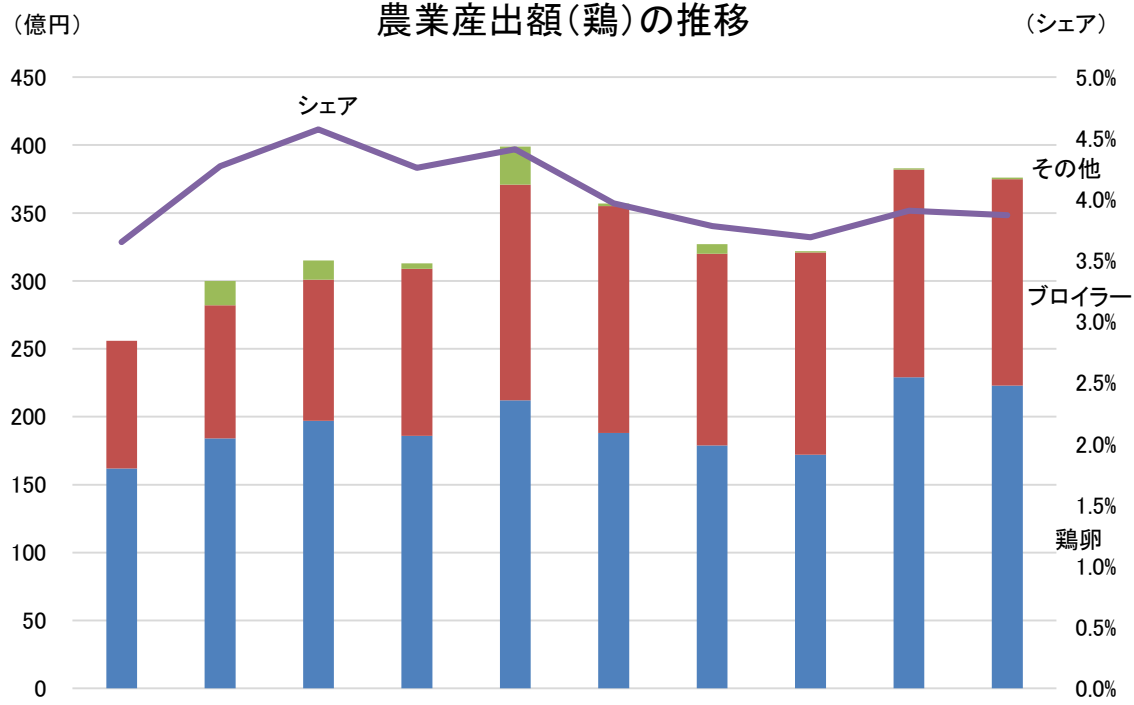
豚肉の国内需給動向と輸入量の推移



# 4 北海道における鶏の位置付け

- 令和4年(2022年)の全国の鶏の農業産出額は10,162億円に対して、北海道は376億円で3.7%を占める。
- 鶏卵の農業産出額は223億円で、全国に占める北海道の割合は3.9%と、全国10位の位置付け。
- ブロイラーの農業産出額は152億円で、全国に占める割合は3.9%と、全国5位の位置付け。

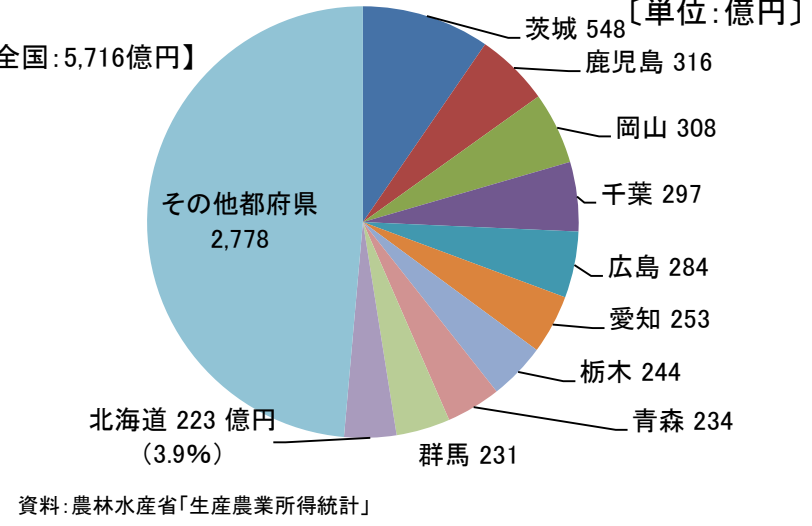
農業産出額(鶏)の推移



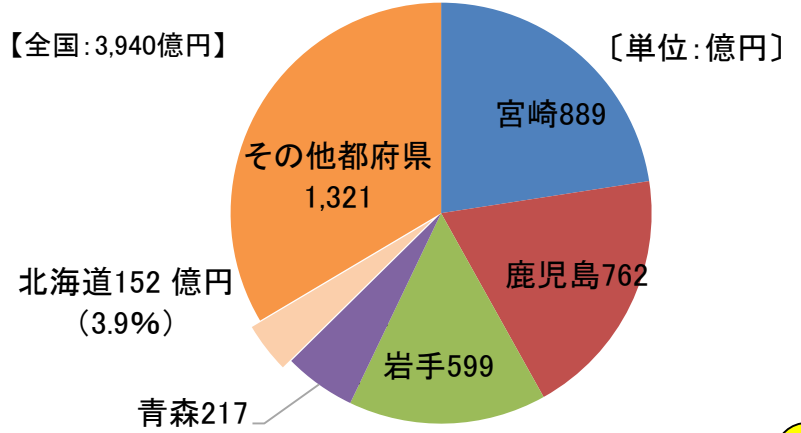
区分	H7年	12	17	22	27	30	R1	2	3	4
全国	7,011	7,023	6,889	7,352	9,049	8,999	8,647	8,724	9,801	10,162
北海道	256	300	315	313	399	357	327	322	383	376
採卵鶏	162	184	197	186	212	188	179	172	229	223
ブロイラー	94	98	104	123	159	167	141	149	153	152
シェア	3.7%	4.3%	4.6%	4.3%	4.4%	4.0%	3.8%	3.7%	3.9%	3.7%

資料：農林水産省「生産農業所得統計」  
 ※単位未満で四捨五入しているため、内訳と合計は必ずしも一致しない。

鶏卵の農業産出額の都道府県別内訳(令和4年)



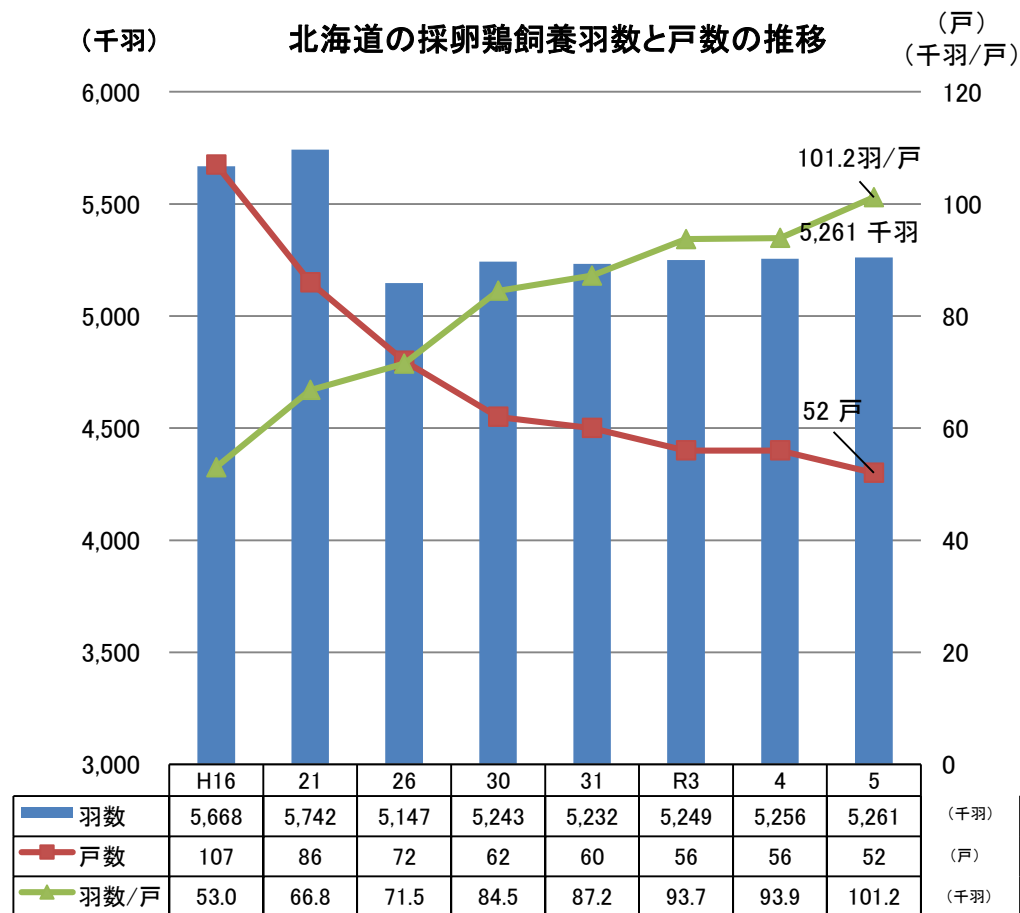
ブロイラーの農業産出額の都道府県別内訳(令和4年)



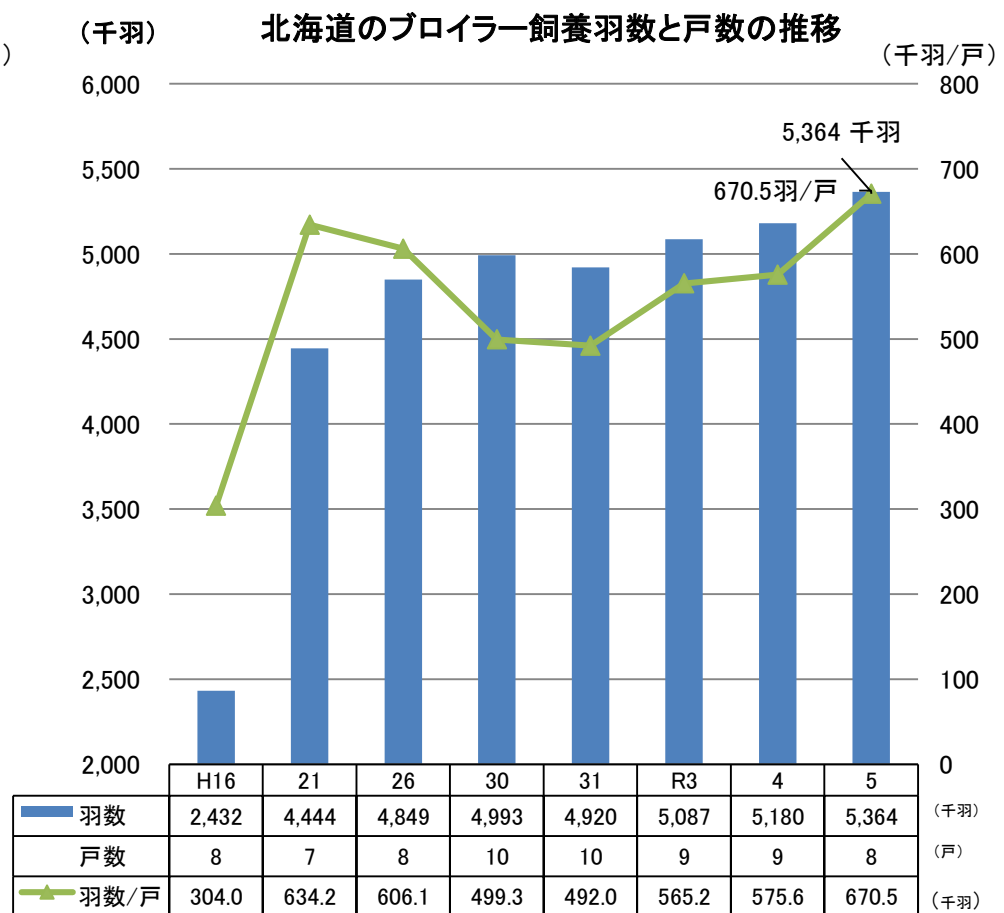
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

# 5 鶏の飼養動向(採卵鶏及びブロイラー(肉用若鶏))

- 令和5年(2023年)の採卵鶏(成鶏めす)の飼養戸数は52戸と減少傾向にあるが、飼養羽数は5,261千羽と近年横ばいで推移。1戸当たり飼養羽数は101.2千羽で、全国平均(76.1千羽)を上回っている。
- 令和5年(2023年)のブロイラーの飼養戸数は8戸と近年10戸前後で推移し、飼養羽数は5,364千羽と増加傾向で推移。1戸当たり飼養羽数は670.5千羽で、全国平均(67.4千羽)を大きく上回る大規模飼養となっている。



資料:農林水産省「畜産統計」  
注:飼養戸数は、種鶏のみの飼育者を除く。羽数は、成鶏めす(6ヶ月以上)の飼養羽数。

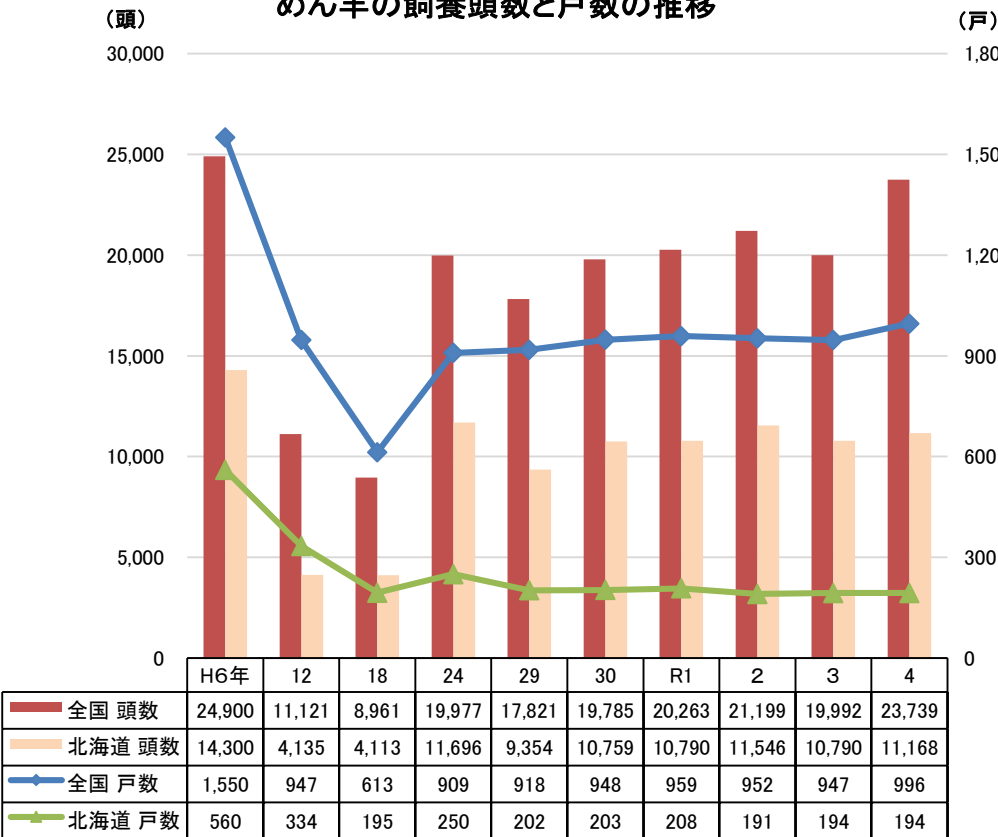


資料:農林水産省「畜産統計」

# 6 めん羊の飼養動向

- 本道のめん羊の飼養戸数は、令和4年(2022年)で194戸。飼養頭数は11,168頭で全国に占める割合は47%。
- 道内の振興局別の飼養頭数は、令和4年(2022年)では、十勝、上川、空知、石狩、オホーツクの順に多く、品種別では、良質のラム肉が生産できるサフォーク種が49%を占めている。
- 国内の羊肉の消費量のほとんどは輸入が占め、国内生産量の割合は1%未満。令和4年度(2022年度)の輸入量の割合では、オーストラリア70%、ニュージーランド26%。

めん羊の飼養頭数と戸数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」(～H9)、中央畜産会「家畜改良関係資料」(H10～22)、農林水産省「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」(H23～)

めん羊飼養頭数上位県の飼養状況(令和4年)

区分	北海道	岩手県	長野県	栃木県	山形県	宮城県	その他	合計
頭数	11,168	2,959	782	736	678	725	6,691	23,739
割合	47.0	12.5	3.3	3.1	2.9	3.1	28.2	100.0

資料：農林水産省「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」

振興局別のめん羊飼養状況(令和4年)

区分	十勝	上川	空知	釧路	石狩	オホーツク	その他	合計
戸数	33	27	19	11	23	14	65	192
頭数	3,295	2,252	2,000	1,343	1,215	806	2,485	13,396

資料：道畜産振興課調べ(2月1日現在)

羊肉の国内生産量の割合(枝肉ベース)

区分/年度	H22	27	30	R1	2	3	4
国内と畜頭数	5,447	5,316	5,225	5,532	5,279	6,020	7,012
国内生産量 a	153	149	147	155	148	169	197
輸入量 b	19,820	18,841	24,133	22,229	19,418	19,603	20,962
総量 c=a+b	19,973	18,990	24,280	22,384	19,566	19,772	21,159
国内産割合 a/c	0.8%	0.8%	0.6%	0.7%	0.8%	0.9%	0.9%

注：「と畜頭数」は、厚生労働省「食肉検査等情報還元調査」。「国内生産量」は、過去5か年(H17～21)の1頭あたり枝肉重量の5中3の平均値(28.06kg)を乗じたもの。「輸入量」は、財務省「貿易統計」。  
※農林水産省「めん羊・山羊をめぐる情勢」より

# 7 軽種馬・その他の馬の状況

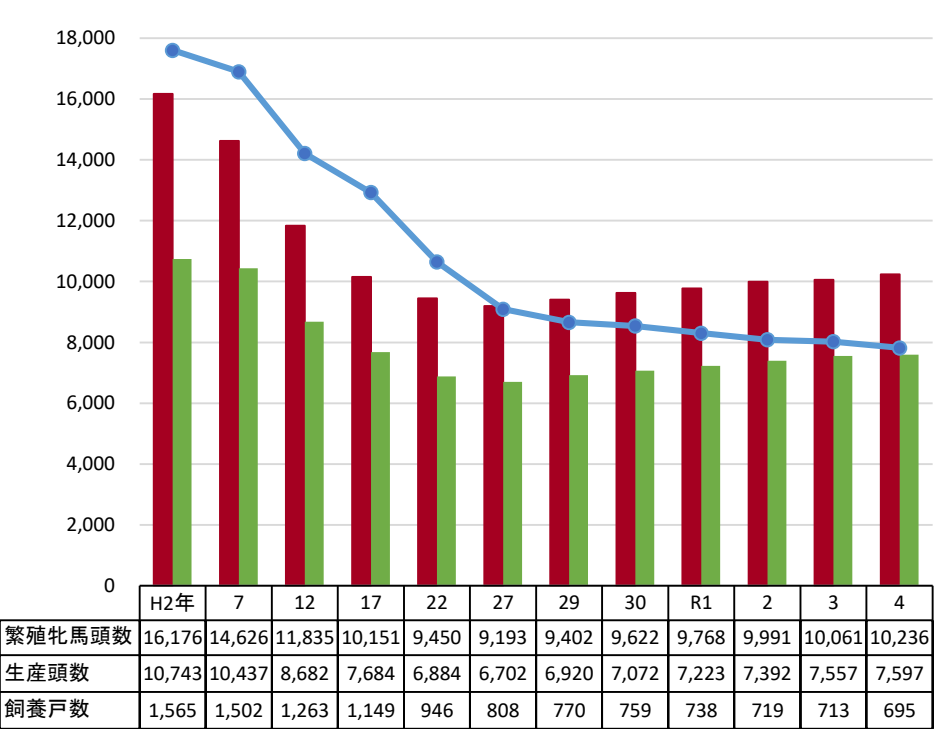
## 【軽種馬】

- 本道は軽種馬の主要産地であり、令和4年(2022年)の繁殖雌馬頭数は10,236頭と、全国(10,514頭)の97.4%。そのほとんどが日高及び胆振管内で、地域経済を支える基幹産業。
- 飼養戸数は695戸で前年に比べ18戸の減少、生産頭数は平成24年(2012年)以降増加傾向で推移し、7,597頭。
- 軽種馬(サラ)の輸出頭数は、前年から38頭増の104頭。

## 【その他の馬】

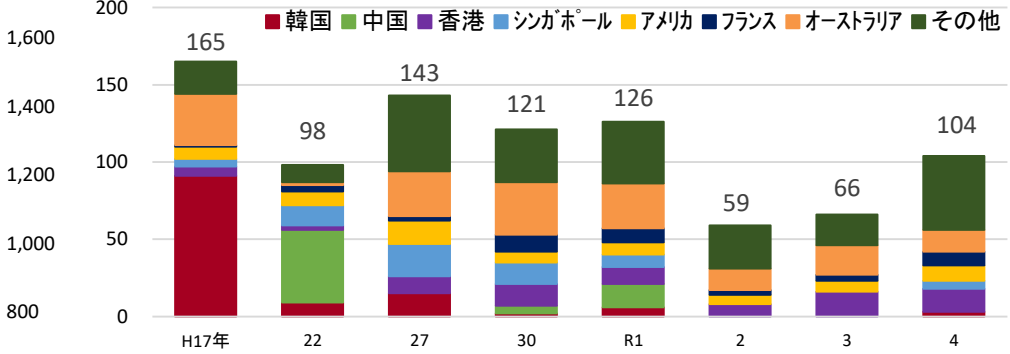
- 重種馬は、昭和30年代までは農耕用・運搬用として大きな役割を果たし、その飼養頭数は、近年横ばい傾向で推移。令和4年(2022年)の飼養頭数は2,743頭であり、十勝及び釧路管内での生産が全道の約5割。
- 北海道和種馬(どさんこ)の飼養頭数は、1,087頭。

(頭) 全道の繁殖牝馬飼養戸数・頭数、生産頭数の推移



資料: 日本軽種馬協会「軽種馬統計」

(戸) 軽種馬(サラ)の輸出頭数の推移



資料: 日本軽種馬協会「軽種馬統計」

## ■ その他の馬の飼養状況の推移

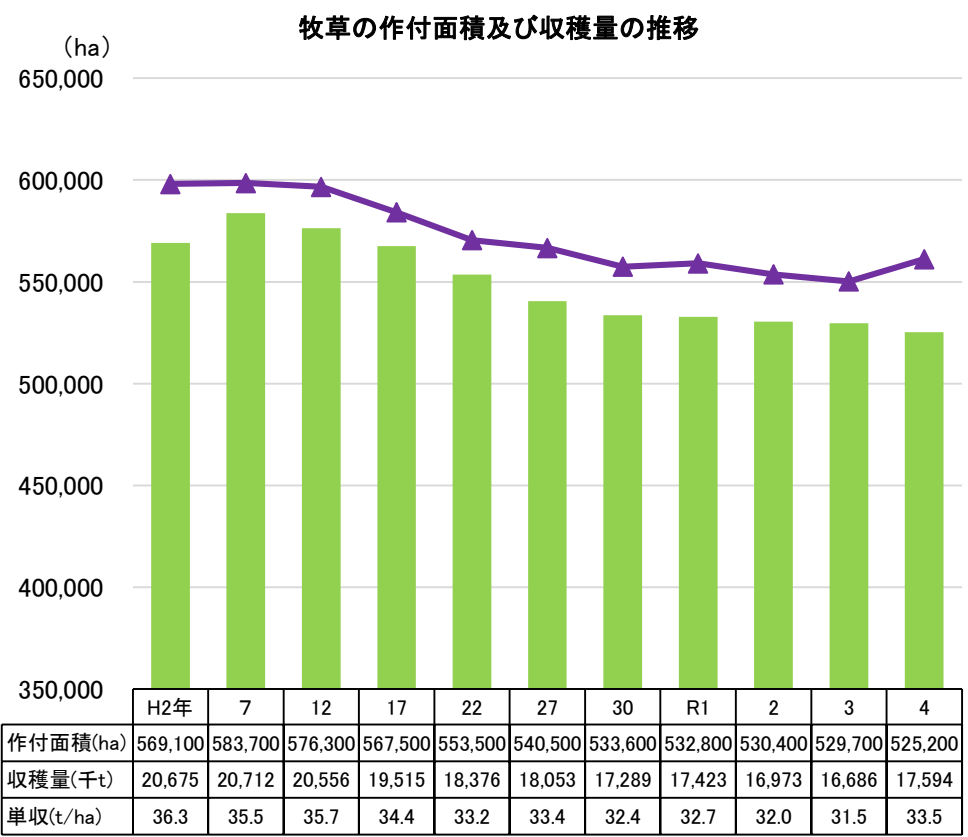
区分		H22年	27	30	R1	2	3	4
重種馬	飼養戸数	668	514	432	402	379	363	333
	頭数	4,336	3,293	2,970	3,024	2,792	2,909	2,743
北海道和種馬(どさんこ)	飼養戸数	195	204	172	162	151	159	137
	頭数	1,198	1,205	1,029	954	1,083	1,014	1,087
ポニー馬	飼養戸数	822	742	668	669	622	571	516
	頭数	2,961	2,647	2,295	2,487	2,233	2,235	2,045
乗用馬	飼養戸数	102	94	90	88	83	83	77
	頭数	1,339	1,149	1,233	1,217	1,138	994	1,005

資料: 北海道農政部調べ

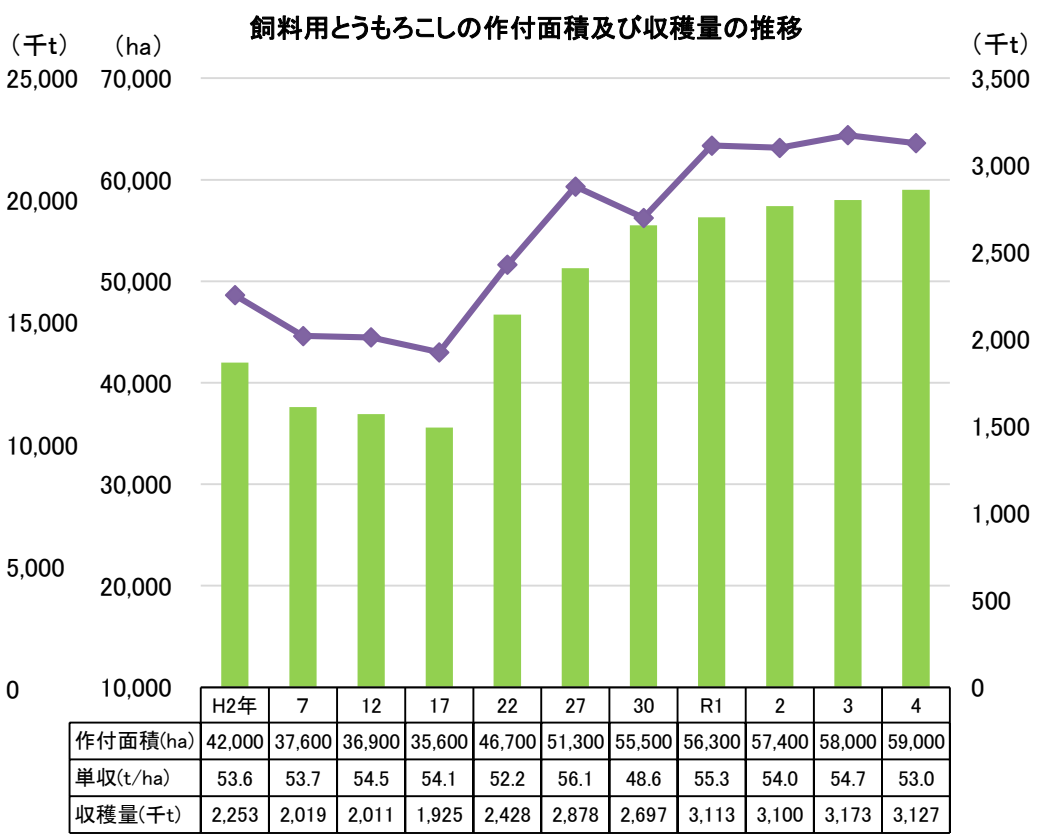
# V 飼料作物

## 1 飼料作物の生産状況

- 牧草作付面積は、近年減少傾向で推移し、令和4年(2022年)は525,200haと前年から4,500ha減。単位当たり収量は、3,350kg/10a(前年比106.3%)、収穫量は17,594千トン(前年比105.4%)。
- 飼料用とうもろこしの作付面積は、近年増加傾向で推移し、令和4年(2022年)は59,000haと前年から1,000ha増。単位当たり収量は、5月後半～6月前半の低温・干ばつ等の影響により5,300kg/10a(前年比 96.9%)と前年から減少、収穫量も3,127千トン(前年比 98.6%)と減少。



資料：農林水産省「作物統計」



資料：農林水産省「作物統計」

## 2 自給飼料の増産対策

- 北海道の大家畜における飼料自給率は、近年、ほぼ横ばいで推移しており、令和3年度(2021年度)は51.8%。
- 北海道の恵まれた土地基盤を最大限に活かすため、草地の植生改善や計画的な草地整備、サイレージ用とうもろこしの作付拡大等、自給飼料の増産対策を推進。
- 良質飼料の安定的な確保や草地基盤の効率的な利用を図る上で、地域の大きな役割を担う飼料生産支援組織(TMRセンター、コントラクター)を活用。

■北海道における飼料自給率の推移(TDNベース)

(単位: %)

区分	H17年度	22	27	R1	2	3
乳用牛	64.6	64.0	65.6	61.0	60.0	60.9
肉用牛	25.5	24.2	26.0	24.1	24.2	25.6
大家畜計	56.0	53.7	55.3	51.5	50.8	51.8

資料: 北海道農政部調べ

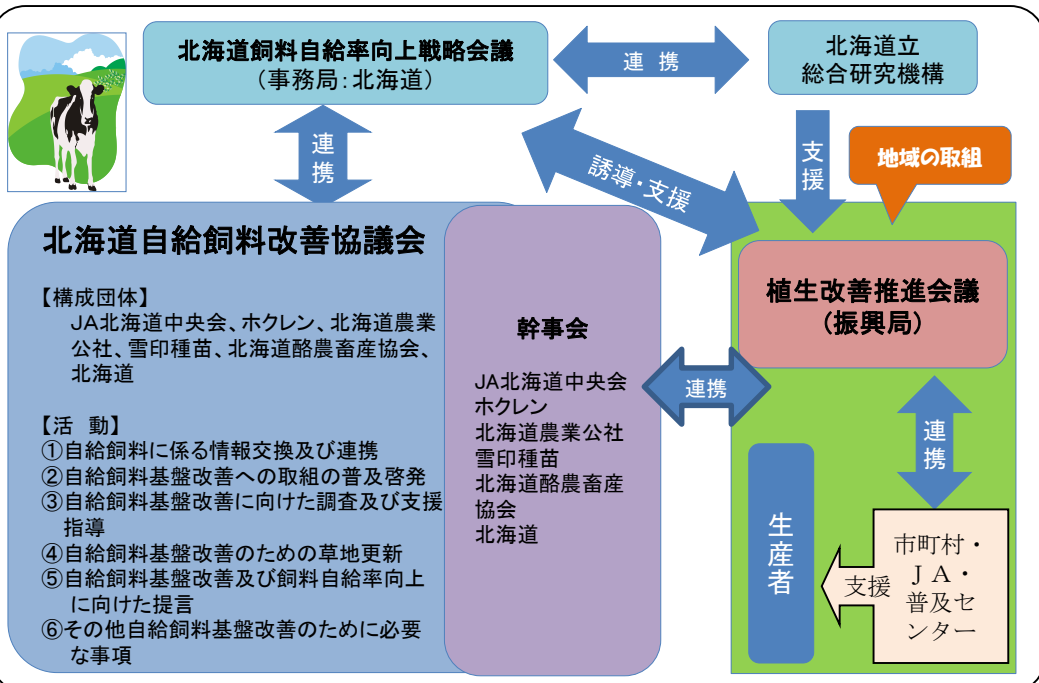
■TMRセンター組織数等の推移

(単位: 組織、戸、頭)

区分	H17年度	23	27	R1	2	3
組織数	15	45	65	83	86	87
構成員戸数	137	461	654	723	745	740
供給戸数	—	—	693	770	788	781
給与頭数	11,566	39,597	75,573	115,174	124,102	126,069

資料: 北海道農政部調べ

■草地の植生改善推進フロー図



■コントラクター組織数等の推移

(単位: 組織、戸、ha)

区分	H17年度	22	27	R1	2	3
組織数	159	164	162	148	147	141
飼料収穫作業組織数	104	126	98	142	140	132
飼料収穫受託実戸数	2,276	2,494	3,166	4,074	4,132	3,489
飼料収穫延べ面積	85,155	114,433	113,282	186,231	194,095	178,514
草地更新面積	3,956	1,375	2,208	3,261	3,108	3,202

資料: 北海道農政部調べ